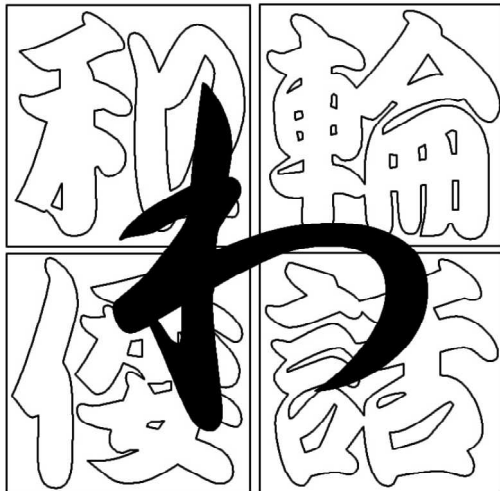


金沢区生涯学習“わ”の会

会 報 第 18 号

平成 18(2006)年 8 月

ホームページ: <http://wanokai.web.infoseek.co.jp/> メール: kanazawa_wanokai@infoseek.jp



“わ”の会マークについて

“わ”とは、

- ◆ 平和・和気あいあいの“和”
- ◆ お話・会話・対話の“話”
- ◆ 古い時代、日本国の呼称であった“倭”
- ◆ 人間と人間を繋ぐ“輪”
- ◆ 感動詞の“わっ！”

を表現する文字で、本会の性格を示す。

制定：2002年5月

目 次

運営委員会からのお知らせ

横浜郷土史団体連絡協議会の今後について	2
総会その後 希望調査の結果	3
新設分科会「浮雲俳句会」	3
“わ”の会蔵書・資料	4

学習会

学習会の感想(アンケート結果)	4
-----------------	---

委員会だより

「INDEX 金沢」の編集作業に参加して	委員 佐藤 栄一	6
----------------------	----------	---

会員の寄稿

ガイドとしての心構え	横田 巖	7
俳句 寺社めぐり [IV] (その1)	北野 清市	8
中山道六十九次紀行 (その2)	真田 雅行	9

金沢の歴史研究

六浦・金沢の地名と地形 (その2)	納富 優	11
-------------------	------	----

分科会からのお知らせ

2006年11月までの予定	14
---------------	----

運営委員会からのお知らせ

横浜郷土史団体連絡協議会の今後について

横浜市内で郷土史等を研究している団体の横断的組織として、横浜開港資料館の呼びかけで本年3月に横浜郷土史団体連絡協議会（以下協議会と称す）が発足し、“わ”の会もこの協議会に会員として加盟いたしましたことは、会報17号でお知らせいたしました。

“わ”の会としては分科会「古文書を読む会」と横浜開港資料館の協働作業として古文書の解読作業等で連携を保つ方向で打ち合わせを行っております。

今後、協議会としてどのような事業計画を展開していくのかを次に記載いたしますので、皆様も関心をお持ちいただき今後の各種行事にご参加いただければと思います。

協議会の事業計画

1) 会報等の発行

- ・協議会会報
年1回（3月）

- ・協議会ニュース

年4回発行（4、8、10、1月）
内容：・協議会の事業、各区で行われるイベント・新刊書紹介
・横浜開港資料館、市周辺の博物館等の催し物紹介

2) 会員を対象としたイベント開催

- ・研修会 第1回 6月18日(実施済み)
第2回 9月20日(予定)
- ・市内の類似施設、歴史スポット、名所、穴場等見学会

3) 会員団体との各種協働事業の開催

- ・“わ”の会の講座後援
- ・「神奈川宿遊学セミナー」との地域資料を読む(古文書解読)協働編集
- ・「鶴見歴史の会」と協働公開講座開催

4) HPを通じた広報

- ・開港資料館HPに協議会のページを開設
- ・HPに協議会の事業計画、ニュース等を掲載する
- ・会員各団体のHPとリンクを図る



総会その後

希望調査の結果

5月の総会でお願いしました希望調査の結果を報告します。63名の回答があり、回収率は50%でした。

1) 「INDEX 金沢」購入

回答会員のほとんどが購入希望でした。2冊以上希望は12人、最高は10冊。これを参考に印刷冊数を決めます。

購入する	購入しない	記入なし
59	4	0

2) 「探訪参加」

回答の多くは参加希望でしたが、記入なしで、未決の会員も多くありました。実際の参加率は従来と同じ程度と思われます。

参加する	参加しない	記入なし
48	6	9

3) 分科会参加

各分科会に参加希望があり、多くの会員が新たに分科会の輪に入られました。

分科会	参加希望
寺社を巡る会	5
古文書を読む会	1
ふれあいの道歩こう会	0
懐かしの映画を観る会	7
浮雲俳句会	10

4) 委員会参加

INDEX 金沢編集委員会に PC 入力に堪能な会員の参加希望がありました。レビュー&レベリング後の清書作業や印刷のためのレイアウト作業などで腕を奮って頂きます。

会員の中には PC 入力に不慣れな方もおられるため、会報編集委員会でも手書き寄稿文の PC 入力にご協力頂ける会員を募っていますので、宜しくお願いいたします。

委員会	参加希望
運営委員会	0
会報編集委員会	0
ホームページ委員会	0
INDEX 金沢編集委員会	1



新設分科会「浮雲俳句会」

最終的には18名のメンバーが集まり、予定通り6月から活動を開始しました。俳句作りの勉強を始めると共に、電子メールを用いた投句・選句のシステム作りを行い、ホームページを利用した優秀作品発表の準備をしています。これからの活動に期待します。

“わ”の会蔵書・資料

7月の学習会で希望会員に配布させて頂きました小倉さんの著書1冊を“わ”の会蔵書として確保しました。新たに追加になった“わ”の会蔵書は次の通りです。貸し出し希望の会員は電話(045-771-4393)または電子メール(kanazawa_wanokai@infoseek.jp)でお知らせ下さい。

No	著者・編者	書名 資料名	発行日	発行元	入手日 (入手法)
16	横浜開港資料館	横浜開港資料館資料総覧	2006.3.31	横浜開港資料館	2006.3 (寄贈:発行元)
17	鶴見歴史の会	郷土つるみ 第61号	2006.3.15	鶴見歴史の会	2006.3 (寄贈:発行元)
18	小倉英明	私の見た中世(二) 一願わくは花の下にて	1995.10.1	小倉英明	2006.7 (寄贈:小倉氏)

学

習

会

学習会の感想（アンケート結果）

第1回学習会 「武州金沢藩（2）」 2006年5月13日

講師：横浜市歴史博物館 学芸員 斉藤 司 氏 出席者：100名（79%）

- 講師の説明は分かりやすく有益だった
- 人の一生は、聖→俗→聖の「円環状」と理解することができると初めて知った
- 「円環状」の節目節目で、自己確認と共にそれを周囲に披露する行事＝人生儀礼が必要とされたことが分かった
- 武士のしきたりが理解できた（命名、花押、相続等）
- 人生儀礼、時間、生活感覚まで考慮して歴史を読む必要ありと感じた
- 幕府・町人の果たしていた役割をもっと詳しく知りたい
- 金沢藩の行事・祭事に関する講演を希望



第2回学習会 「江戸時代の金沢（2）」 2006年6月10日

講師：横浜開港資料館 調査研究員 西川 武臣 氏 出席者：89名（70%）

- 長年の研究成果を具体的な実資料で分かり易く解説頂いた



- 町屋商人という身近な人の実生活に関わる具体的・身近な話で興味深かった
- 江戸時代後期の東京湾を中心とした物流の広さ・盛んさがよく分かった
- 物流の面から江戸時代における庶民の実生活の状況が理解できた
- 金沢地区と日本各地の港との交易状況と歴史的変遷を詳しく知りたい
- 分かりやすい資料、よく分かる言葉使い、歯切れの良い・ユーモアある説明に聞き入った
- シリーズで今回の続きまたはどんなテーマでも良いから来年度も西川先生のご講演を希望

第3回学習会 「伊藤博文公と金沢」 2006年7月8日

講師：金沢の歴史資料蒐集家 楠山 永雄 氏 出席者：97名（76%）

- スライド多用で興味深い、スライド利用を今後も続けて欲しい
- 金沢と伊藤公の関わりの深さに驚き、感動した
- 憲法記念碑の数奇な変遷を知った
- 夏島が憲法草案起草地となった理由の一つが、自由民権論者の妨害対策と分かった
- 皇居焼失による赤坂御所の「会食所」は、その後移転され、明治記念館（憲法記念館）の主要部となっているが、一時期あった金沢への移転計画が実現しなかったのは残念至極
- 大橋新太郎の人物像と事績を詳しく知



- りたい
- ご苦勞して集めた資料の未公開のものに関する講演をいただきたい

委員会だより

「INDEX 金沢」の編集作業に参加して

INDEX 金沢編集委員 佐藤 栄一

先日、「INDEX 金沢」編集作業について会報誌にのせたい旨の原稿依頼がありました。そこで知らないうちに「INDEX 金沢」編集委員会メンバーになったひとりとして、私が個人的に思っていることをこれから話してみることになりました。

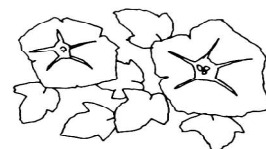
最初の作業は項目集め。その後で執筆メンバーのひとりとして解説文を書くことになりました。私に割り当てられた項目をみると、最初のうちは日頃から関心を持っていたり、すでに調べてあった項目であれば不十分ながらも何とか文章にすることができると思っていました。ところが分かったつもりで文章にしようとするとなかなかできない。相変わらず紙の上で書いたり消したりしてなかなか先に進まず、時間ばかりが過ぎていく。それでも現地へ行って確認すると何とか文章が書けそうな気がした。難しい項目は、生没年すら分からない人物だ。生没年が分かれば、その間のことを文献で調べれば何とかなると思った。ところが文献が見つかってもしりたいことが出てなくておろおろする。

続いて執筆メンバーから集めた解説文の検討（レビュー&レベリング）に入った。私自身「知っているようで知らないことが多い」と、いつも思っている。そこで執筆者がまとめた解説文の見直しをしようと思っても、

- 文章の表現や内容は執筆者によりいろいろな見方、考え方があるので、はたして直してよいのだろうか
- 項目は奥が深く、限られた字数でまとめるのは至難の技ではないか
- 思いつきで直しているのではないか
- 解説文には肝心なことが書かれていないのではないか

などと思いを巡らし落ち込んで、作業にも力が入らず四苦八苦。そんな中で、このようなことを思い出す。いつだったか横浜国立大学の先生から人物の調べ方を教えていただいたこと。しかし、その先生すらひとりのフランス人のことを調べ上げるのに1年以上もかかっていた。このような例を知っているものだから、解説文のレビュー&レベリングで四苦八苦している割には、それでも何とかなりそうな気がして「がんばらなくても大丈夫」とも思う。

最後に「INDEX 金沢」が出来上がったことを考える。手にとった方は、解説文を読み、内容に関心を持って、更に自分で調べて知識を広げてくれればと思う。決して強制するつもりはありませんが、地域の歴史が分かってくるといことは、なんと楽しいことではありませんか。



会員の寄稿

ガイドとしての心構え

横田 巖

私は神奈川県立歴史博物館で6年間展示解説員としてボランティア活動を行った後、現在は横浜市歴史博物館・三溪園・平塚市博物館・横濱金澤シティガイド協会などでガイドを行っている。その他にさくら会という会員約20人の史跡探訪の会の代表として月に1回各地を案内している。

また個人的にガイドを依頼されることがあり、東京・埼玉・神奈川の各地をガイドしたり、横浜市の区役所・地区センター・コミュニティハウスの生涯学習で講師やガイドを行ったりしている。

ガイドの心得として大切にしているのが「安全に楽しく正確に！しかし型にはまらず、客層に合わせた無理のない話し方やガイド」である

が、なかなか難しいものである。

いろいろな場所での活動を通して、見聞を広め知識を吸収しガイドとしての向上に努め、様々な質問に答えられるようになりたい。

私はガイドとしてばかりでなく、逆にガイドの方から教えて頂く様々なガイド協会の行事にも参加している。ところが、ガイドの方が間違えてお話されていることが多々ある。これを他山の石として自分自身そのようなことがないように、日々勉強を楽しみながら、知識を増やしていきたい。

「ガイドをしてもらって良かった、楽しかった。」と喜んでもらえるように、日夜努力しているつもりだが、まだまだ満足できない。これからは研鑽が必要だと日々痛感している。



俳句 寺社めぐり〔Ⅳ〕(その1)

～分科会「寺社を巡る会」に参加して～ 北野 清市(一清)

H15年度から始まった「鎌倉俳句寺社めぐり」も、本年で4年目を迎えた。しかも、最近は三浦半島や湘南にも足を伸ばしているの、タイトルを今回から「俳句 寺社めぐり」に改めて継続して参りたい。

第1回 「和田義盛の旧跡を訪ね」

H18年5月11日。曇り後雨。10時京急三崎口駅集合。安楽寺跡・義盛井戸・義盛館跡・和田城址・白幡神社(昼食)・霊泉跡・日枝神社・来福寺の順に探訪した。

立夏を過ぎて数日であるというのに、早くも走り梅雨を思わせる天気が続いている。しかし三浦半島は青葉若葉の季節到来だ。

《北野 一清詠》

新緑のなかを京急三崎口
石仏の安楽寺跡かきつばた
義盛の使ひし井戸や草茂る
義盛の館の跡や花は葉に
キャベツ畑続く三浦の和田の里
義盛の和田城跡や若葉雨
本堂に薬師三尊走り梅雨(天養院2句)
老鶯や竹百幹を渡る声
泉涌く穀倉地帯のなかにかな
木下闇大樹を貫って風渡る(日枝神社)
義盛の木像座せる来福寺

第2回 「三浦義村の史跡を訪ね」

H18年6月1日。晴。10時京急三浦海岸駅集合。十劫寺・白山神社・法昌寺・菊名左衛門重氏の碑(昼食)・円福寺・三浦義村の墓・福寿寺の順に巡る。

今日から月も変り6月。1日は気象記念日・電波の日・また更衣の日でもある。5月は平年よりかなり日照時間が短かったが、月が変わり、本日は皞月晴の気温30度の真夏日であった。

《北野 一清詠》

法然の法話聴かむと蟻急ぐ(十劫寺2句)
風薫る続きし檀家十六代
社へは紫陽花の径のぼりけり(白山神社)
風青しやぐらに刻む磨崖仏(法昌寺)
老鶯や安房を煙らす声曳きつ(重氏の碑2句)
ゆっくりと鶯の落ち来る青葉潮
万緑のなかの地藏や杉の鉾(円福寺)
夏草やつわものの夢義村碑(義村碑2句)
義村の鞍置かれをり麦の秋

第3回 「懷島の史蹟を巡る」

H18年7月6日。曇り一時雨。10時JR茅ヶ崎駅集合。鶴嶺八幡宮・龍前寺・宝生寺(昼食)・神明神社の順に探訪した。

天気図では日本列島の太平洋岸に梅雨前線が停滞。南方洋上には台風3号が北上し、沖縄方面を狙って、梅雨末期の様相を呈して

いる。このような中、明日は七夕それに小暑で土用の入りである。

《北野 一清詠》

茅ヶ崎に「左富士」あり夏座敷

頼朝の落馬の跡か半夏生(鶴嶺八幡 2句)

緑陰に座していこふや「大イチョウ」

御仏の意よあぢさみの藍濃きも (龍前院 3句)

おほてらの昼を灯して梅雨深し

夏瘦せて金色の阿弥陀拝みけり

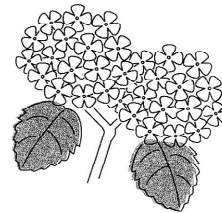
散ることは生き切ることと紗羅の寺(宝生寺 4句)

宝生寺飛天の欄間梅雨じめり

収蔵庫に涼しくおわす弥陀三尊

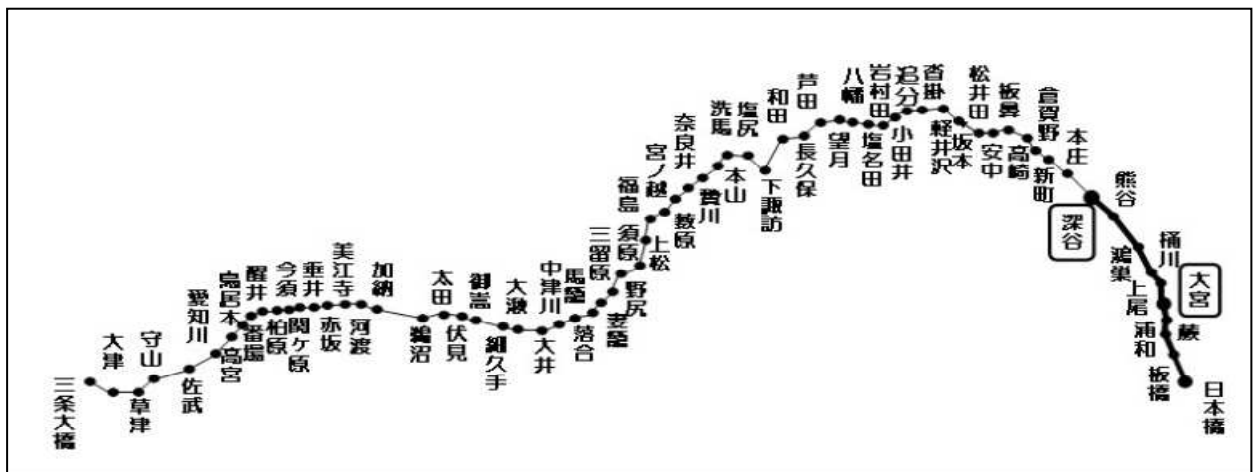
向日葵に息奪われし寺男

持ちかへて風新しき古団扇(神明神社)



中山道六十九次紀行 (その2)

真田 雅行



<大宮宿—上尾宿—桶川宿—鴻巣宿—熊谷宿—深谷宿> (45.5 km)

大宮宿から「上尾宿」に近づくと古社「加茂明神」があり、画家英泉は、幟がはためく神社の隣の茶店風の農家前で、一家総出で唐箕(とうみ)で芻に混じっている殻やゴミを分ける収穫風景を描いている。上尾は小宿ながら結構賑わったらしく、本陣跡から少し行った「遍照院」

には、25才で亡くなった大村楼の薄幸の遊女お玉の墓がある。

「桶川宿」に入ると、商家屋敷や三階建ての蔵、更に旅籠「武村旅館」などが現存し、繁栄の面影が随所に残っているが、それは紅花や良質な染料「武州藍」の産地として賑わ

ったからであり、「桶川稲荷神社」には紅花商人が奉納した常夜灯がある。必見は「大雲寺」にある「女郎買い地蔵」で、住職が夜な夜な飯盛女に会いに行く若い坊主への戒めとして、地蔵に罪をかぶせるために鎖でしばりつけ、その背中に鎧(かすがい)を打ち付けたものといわれ、今も三体のうち一体に鎧が打ち付けられたお地蔵さんがしょんぼり立っている。

次の「鴻巣宿」は雛人形の産地、今も雛人形店が軒を並べ、「雛屋人形資料館」に入って各種の鴻巣雛人形をみて旅の疲れを癒す。

その他興味を引いたのが「勝願寺」の伊奈忠次・忠治親子の墓である。

徳川家康は関東移封後、腹心の伊奈忠次等4人を関東郡代に任命して関東八州の地方支配と開拓にあたらせた。特に利根川と荒川に挟まれたこの武州中北部の低地は氾濫を繰り返したため、家康は代官筆頭の忠次にこの地を与えて治水と灌漑を行わせた。この忠次・忠治親子のお陰で、武州の田地は倍増したといわれる。当時江戸湾に注いでいた利根川を銚子沖につけ替えたのも伊奈氏であり、勝願寺本堂裏手には3mもの親子の墓がある。

このほか鴻巣には箕田源氏の子孫で頼光四天王の一人・渡辺綱を祀る「氷川八幡神社」があり、またこの箕田周辺には清和源氏の祖・源経基の居宅跡もあることから、この地帯が開拓農場主＝武蔵武士の本源地でもあったようだ。

鴻巣宿から久下(くげ)にある「権八地蔵」(歌舞伎「鈴ヶ森」で名高い)を過ぎて荒川の土手に上ると、16km先の「熊谷宿」まで見渡す限り広大でどかな田園が展開するが単調な道で、日暮れまでに熊谷に着くために痛い足を引

きずりながらひたすら歩く。

「熊谷宿」は忍(おし)藩領で、秩父・川越・足利方面への交通要地だったが、空襲で焼かれて宿場の面影はなく、僅かに道端の「秩父道道標」で往時を偲ぶのみ。

だがここは、源平一の谷合戦で平敦盛を討った熊谷次郎直実の故郷であり、駅前には彼の騎馬銅像が建てられ、宿中心にある「高城神社」が彼の氏神。近くの「熊谷寺(ゆうこくじ)」は、彼が仏門に入り営んだ草庵「蓮生庵」の跡で、境内の宝篋印塔が彼の墓という。

熊谷から10km、日本橋から77kmの「深谷宿」は、明治の実業家・渋沢栄一の出生地。商人や遊女の多い市場町・宿場町として栄え、宿はずれの「見返りの松」は、旅人が遊女との別れを惜しんだ所だというのが、私の関心は「清心寺」と「普濟寺」にある。

やはり源平一の谷合戦で、平家の薩摩守・忠度を討ったのが当時深谷を所領としていた「岡部六弥太」で、彼が忠度の死を悼み菩提を弔うために、この地に建てた忠度五輪塔が清心寺内の入口にあり、又自身が開基となったのが普濟寺であり、彼の墓もここにある。

それにしても武蔵は“武蔵七党”といわれるように、平安期から鎌倉時代にかけて、この地に開拓農場主が根を張り、次代を担う有力武士団に成長していった様子がこの旅をしながら実感出来た。畠山重忠もその一人で、武蔵畠山館(やかた)が本拠である。



金沢の歴史研究

〔会員による自主講座〕

六浦・金沢の地名と地形（その2）

納富 優

2 つ目の地名「布久良」です。「布久良」は西暦 935 年頃に成立した和名抄（倭名類聚鈔）に出てきます。人によっては、「布久良」は今の本牧の石川町よりの平字一族がいたところで、「金沢」あたりは「洲名」だろうと、結構まじめにいつています。「布久良」と「金沢」をつなげる証拠となるものは見つかりませんが、ちょっとそれはいい過ぎではないかと思っています。「布久良」は「金沢」にあったと、私は考えています。

「布久良」も万葉仮名で、読みは「フクラ」です。図 6 のように、「フクラ」は全国に約 40 箇所あります。吹浦・福良・福浦などです。現在では、「フクラ」と読むところと、「フクウラ」と読むところが半々です。「フクラ」は山形県の海岸や兵庫県の淡路島などにあります。「フクウラ」は方々にあり、東北から九州までかなり一律に分布しています。

図 6 のように、私は当地の「金沢」の「フクラ」は「布倉」で、「フクラ」または「フグラ」が元々の語源じゃないかと考えています。もちろん他の説も色々あります。これからその理由

布久良

- フクラは全国に約40
吹浦・福良・福浦…
- フクラは布倉
- 布の原料は苧・麻
- 下総は布の大産地
- フクラかフグラか？
米倉・金倉・小倉百人一首（図 6）

を考えてみます。図 6 に「布の原料は苧・麻」とありますが、図 7 で、もう少し詳しく見てみましょう。

衣服の原料

- 毛皮 ワラ、ツル
 - 布 苧・麻
 - 絹（江戸中期）
 - 木綿（戦国）
 - 毛織物（明治）
 - 合織（昭和）
- （図 7）

図 7 のように、最初衣服は毛皮とか、わら、蔓で、その前はイチジクの葉だという人もいま

すが、これらを着ていました。その次はやっぱり布なんですね。布の原料は古くは「苧(チョ)」と「麻(マ)」、「苧麻(チョマ)」で、「カラムシ」とか「大麻」で造ったかなり粗いものを着ていました。

「苧」ですが、「チョ」は音読みで、訓読みでは「オ」とか「ソ」といっていました。「苧」は植物の名前で、「カラムシ」(イラクサ科の多年草)のことです。「カラ」は荏柄えがら天神の「カラ」で、「ムス」は蒸気で蒸すの「ムス」です。

「がら」を「蒸して」繊維をとります。いっぽう、「麻」は「大麻」(くわ科の1年草)です。この2つが布の原料として当時2世紀から4世紀以降にかけて、一番ポピュラーでありました。古代織とか古代染めを趣味でやっている方はご存知かと思いますが、今日ではこの手の物は織って染めて織物にするには、結構費用のかかるものですが、当時のごく一般的でした。

「ジュード」という言葉をご存知ですか。英語だと思いますが、昔「ドンゴロス」といって、コーヒー屋さんで、豆を入れた大きい袋がありました。あれが「ジュード」です。「ジュード」は「黄麻」と書きます。これは「シナの木科」のインド原産で、インド、パキスタンで刈りいられていますが、ごわごわしていて今では衣服には向きません。

「絹」は古くからありましたが、実際に大量

に使われたしたのは、江戸中期からです。「木綿」も古くからあったようですが、広く使われるようになったのは、戦国時代になってからです。綿の栽培は日本でやっていました。最初三河地区、遠江国のあたりで入ってきて、そんなには伸びなかったのですが、戦国時代になってかなり量としては増えてきました。毛織物は明治、合織は昭和ですね。

図6に戻ります。「苧(チョ)」とか「麻(マ)」とか「布(フ)」はかなり前からあり、古代においては、布は苧(チョ)とか麻(マ)とかの材料で作ったものでした。その産地ですが、下総(千葉県)の中西部が「苧」の大産地で、自然にもできて、栽培もしていました。全国で3大産地のひとつでした。他は新潟と長野です。

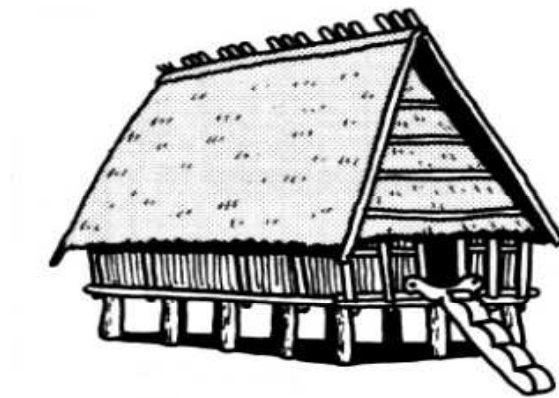
さて、その「布」ですが、当時における税金に対する代納品の典型的なものでした。下総で生産された布は、税金として「庸」の代わりに「調」としてこれを収めることが結構ありました。では、それをどのように下総から奈良へ運んで納めるか。下総から奈良へ運ぶには東海道路があるのですが、下総から東海道の保土ヶ谷とか藤沢に出すのは結構大変でした。というのは当時の東京湾は大体今の関宿(千葉県野田市の北端部)、つまり茨城県、群馬県、千葉県、栃木県、埼玉県のごじゃぐじゃと集まったあたりまで入り江、もしくは沼地が多く、人が通りにくいところでした。また、船をつけるにも荒川は流れが結構急ですから、そのあたりでは難し

かったと思われます。そこで下総の布を船で六浦まで持ってきて、たぶん瀬ヶ崎のあたりだと思いますが、そこにあつた倉で一時中継して、それから侍従川をさかのぼり、山越えをして、東海道の保土ヶ谷、戸塚、藤沢に抜けたのではないかと思います。これが、物産の流れから考えた「フクラ」＝「布倉」の理由です。

次は読みから考えます。「フクラ」という読みは、「布（フ）」は音読み、「倉（クラ）」は訓読みで重箱読みです。一文字一音の音とか訓とかは、かなりばらばらに認識されていたのではないかと思います。人名とか地名では音訓読み（重箱読み）、訓音読み（湯桶読み）をあんまり気にしていなかったと思います。今でも、野島に架かる「夕照橋」が「ユウショウ」か「セキショウ」かで、湯桶読みを嫌う人もおられます。また、音便を嫌う人もいます。好みの問題が結構



あります。

それから果たして「フクラ」なのか「フグラ」なのか。万葉仮名では濁音と清音とは分けて使っているのが多いのですが、混ぜて使っているケースも有ります。例えば「天（アマノ／アメノ）香具山」ですが、「グ」を「久しい」という字や道具の「具」や人偏をつけた「俱」などいろいろな書き方があり、たぶん濁りのあるなしは非常に微妙だったと思います。鎌倉時代でも江戸時代でも書いたものには濁点は付けなかった。現代の言葉でいうと米倉（コメグラ）、金蔵（カネグラ）、小倉（オグラ）といずれも濁ります。小倉百人一首の小倉（オグラ）は京都の山を指しますが、小倉（オグラ）は他にも結構多いです。これはあまり気にする必要はありません



分科会からのお知らせ

2006年11月までの予定

	9月	10月	11月
寺社を巡る会	9月7日(木) 集合：10:00 JR平塚駅北口 テーマ：金目観音 行動：光明寺～善福寺他	10月5日(木) 集合：10:00 小田急伊勢原駅 テーマ：日向薬師 行動：太田道灌墓～日向薬師～伊勢原大神宮他	11月2日(木) 集合：10:00 京急浦賀駅 テーマ：浦賀周辺の古刹を探る 行動：顕正寺～専福寺～東林寺～東叶神社他
古文書を読む会	9月14日(木) ペリー渡来に関する浦賀与力の聞書 9月28日(木) 飛鳥山往来	10月12日(木) ペリー渡来に関する浦賀与力の聞書 10月26日(木) 飛鳥山往来	11月9日(木) ペリー渡来に関する浦賀与力の聞書 11月30日(木) 飛鳥山往来
ふれあいの道歩こう会	9月21日(木) (雨天時22日(金)) 埼玉⑬高原牧場を通るみち 9月28日(木)、29日(金) (雨天時の延期日未定) 埼玉⑨将門伝説を探るみち ⑩下久保ダムを望むみち	10月19日(木) (雨天時20日(金)) 埼玉⑤大霧山に登るみち ⑥花の美の山公園を訪ねるみち 	11月16日(木)、17日(金) (雨天時12月21、22日) 群馬①三波石峡のみち ②溪谷を下るみち ③桜山のみち 
懐かしの映画を観る会	9月11日(月) 12:15 武器よさらば(米) モロッコ (米) 9月25日(月)12:15 北北西に進路とれ(米)	10月2日(月) 12:15 暖流 (松竹) 10月23日(月)12:15 昼下がりの情事(米)	11月13日(月) 12:15 ティファニーで朝食を(米) 11月27日(月)12:15 HANA-BI(北野プロ)
浮雲俳句会	9月24日(日) 講義のテーマ：吟行 内容：結社で行う吟行会等 場所：金沢地区センター 余暇室(予定) 時間：9:30～12:00	10月15日(日) 金沢区民俳句大会 吟行会見学 場所：富岡総合公園近辺 時間：12:00～未定 集合：並木地区センター	11月26日(日) 講義のテーマ： 花鳥諷詠表現とその方法 場所：金沢地区センター 余暇室(予定) 時間：9:30～12:00

連絡先

寺社を巡る会	古文書を読む会	ふれあいの道歩こう会	懐かしの映画を観る会	浮雲俳句会
内田 新二 TEL 772-5610	岡田 満 TEL 784-3420	宮原 宏至 TEL 783-4539	佐藤 晃 TEL 701-1606	北野 清市 TEL 774-3878

編集後記 総会のある5月号以外の会報は12～14頁に収めて来ましたが、有益な情報提供と共に、楽しめる紙面を目指しています。皆様の六～八十数年の人生経験の中から、一摘みのエピソードをお寄せ頂くことを期待しています。(杓)	発行日	平成18(2006)年8月5日
	発行周期	4回/年(2、5、8、11月)
	発行者	金沢区生涯学習“わ”の会
	編集責任者	小岩 克介